

# 西脇小学校という文化遺産における 子どもの体験機会と大人の成長機会の獲得

## 兵庫県西脇市 西小おやじの会

### 1. 活動内容

私たち西小おやじの会は、西脇市立西脇小学校の子どもたち（児童）のためのイベントを通じて、子どもたちの思い出作りに寄与するとともに、子どもとその保護者、学校関係者とおやじの会メンバーとの交流を促すことで、小学校を中心とした地域の一体感と児童の郷土愛の醸成を目的に活動をしています。

13年前のPTA役員の退任時に引き続き西脇小学校で楽しいイベントやメンバー間の交流を行いたいという動機からこの活動がスタートし、その活動を通じて徐々に保護者を中心にメンバーが加わり、今に至っています。息の長い活動の秘訣はメンバーそれぞれが参加できるときだけ集まるという緩やかで寛容なチームの風

土を醸成してきたことです。メンバーの規律、統制には拘ってこなかったということです。継続性が担保できている一方でイベント当日人手不足で大変な時期もありましたが、最近ではPTAの役員や先生、保護者の方の協力もあり、活動を通じて大人の連携力や底力を子どもたちに見せる絶好の機会にもなっています。

西脇小学校の築90年弱の木造校舎群を舞台とした肝試し、校庭全体を舞台にテレビの人気番組を模した鬼ごっここの逃走中、餅つき体験、そして木造校舎の50mの廊下を使った雑巾がけのタイムトライアルなどのイベントを企画・運営しており、子どもたちと共に私たち自身が純粹に楽しむことには徹底的に拘ってきました。これは本会の裏の目的として、私たちが楽しめることも同じくらい大切にしていることであ



PTA主催のイベントの日に合わせて餅つき体験を実施。子どもたち全員餅をつきたがります。必ず全員でお餅をつきます。ついたお餅は子どもたちや保護者の胃袋に（令和元年11月）





50 mの廊下を雑巾がけタイムトライアル。オリンピックに先駆けて感染予防対策として、Youtube Liveと校庭でのパブリックビューイングで無観客にて開催(令和5年7月)



肝試しはコロナ禍前には100名弱、コロナ禍では100名超えに、そして今では160名の西小生が参加。みんな怖がってなかなかスタート地点から前に進まず渋滞に。そんな時はお化け役のスタッフも「怖くない」と声を掛けながら子どもたちを励まして前に進めようとしますが、逆効果でした(令和3年11月)



人気テレビ番組を模した鬼ごっこ「逃走中」。おやじの会メンバー、希望する保護者、PTA役員、トライやるアクションで参加の中学生がハンター役として西小の児童を捕まえようと虎視眈々とハンターボックスにて待機中です(令和2年11月)

### ① 多くの児童と大人の参加

## 2. 直近の成果

り、これが持続可能な活動の原動力の一つです。またトライやるアクション(※1)を活用して西脇中学校の生徒の参加を募り、任せることで人を楽しませることを自ら考え、人を楽しませることの喜びを感じてもらおう仕掛けも始めています。昨年度は元卒業生を中心とした高校生も参画してできるようになりました。

近年はSNSを使って積極的に情報発信することで地域の皆さんや私たちの祖父母の世代から子ども世代に至るまで地域の共通の思い、財産が残りに残っている西脇小学校の価値を高めることで、今の西小の児童たちの誇りにつながるような試みを行っています。

楽しむ・楽しませる連鎖の深化についてはコロナ禍によりトライやるウィークが中止・縮小となる中、生徒の成長機会の提供に寄与できました。また高校生も参加し始めています。

- ・前年比1.5倍の児童参加(児童数約400名、昨年度は延べ350名が参加)
- ・昨年度は13名の中高生が参画

### ② 活動の広がりとブランディング

マスコミ等の取材、情報発信もあり、地域内でのまちづくり活動としての認知度が上がり、近隣の小学校でも子どもたちのための体験機会を保護者が提供するという動きが生まれています。

子どもたちにとっては西脇小学校での思い出がさらに増え、またこれらの情報を見た市外、県外在住の地元出身者からも当時の思い出と変わらない西脇小学校やそこで楽しく過ごしている子どもたちの姿を見たり、聞いたりしての喜びや、自身が西脇で育ったことを思い出し嬉しく思えたなどの声が多く寄せられ、私たちの想像を超えた西脇小学校と地元西脇のブランディングにつながりました。

### ③ 楽しむ・楽しませる連鎖・ループ

近隣の西脇中学校の生徒がトライやるアクションで運営に参画してもらおう取り組みにおいては、過去のイベントで西小の児童として楽しんでいた卒業生たちとその話を聞いて西脇小



西小校区の地域イベントで焼きワッフルを販売。この収益で西小の子どもたちの思い出作りをしています（令和4年5月）



当日サンテレビの番組「ひょうご発信！」の取材がありました。飛び入り参加の2名の先生へのインタビューシーンです。カットされてしまいましたが（令和3年11月）

学校に訪れたいと思っていた他の小学校出身の生徒が参画しています。

令和元年には参加人数は前年の参加人数から倍増し、令和2年はコロナ禍によりトライやるウィーク（※2）が見送りとなる中、生徒の成長機会の提供に寄与する結果となりました。令和3年度は緊急事態宣言などにより何度も延期があり、また中学生のコロナウィルス感染が急増する中、中学生の参加は少なくなっていました。令和元年は35名、令和2年は16名の中学生、令和3年は3名の中学生と9名の高校生が参加）

参画した中高生には西小の子どもたちへの貴重な体験の提供と安全の両立という大きなテーマのみ渡し任せることで自ら考え、人を楽しませることの喜びを感じてもらい、結果的に中高生の成長機会にもなりました。何よりも子どもたちは日々成長する姿を目の前で見ることで、私たち大人にとっても成長機会になっています。この取り組みを通じて、西小の児童として本会のイベントを楽しんでいた卒業生を中心とした中学生・高校生と小学生の子どもたちの関係の中で自身が楽しむこと、人を楽しませることの連鎖、ループが始まり、その輪もじわじわ



50名規模の子どもの参加を想定していたイベント。なんと100人超え!! チラシ作成からワクワク感を伝える仕掛けが結果に現れてきたかもしれません。保護者ボランティアやトライやるアクションで参画した中学生に支えられ運営することができました（令和4年7月）

と大きくなっているように感じています。

そして、今年令和5年10月5日は西脇小学校の創立150周年となります。8月に実行委員会を立ち上げました。記念事業の対象は在校生童だけではなく、卒業生や地域の方々を含めた「みんな」です。懐かしさと新しさが混在する西脇小学校の校舎で人の交流を通じて、様々な学びや気づきとなる機会をみんなで作ってきたいと思っています。

※1 トライやるアクション・兵庫県の中学生を対象とした地域のボランティアを通じた体験活動

※2 トライやるウィーク・兵庫県の中学生を対象とした職場体験、福祉体験、勤労生産活動など、地域での様々な体験活動を通じた、生徒一人一人が自分の生き方を見つける一助としての1週間の体験・支援活動

（西小おやじの会代表 肥田雅之）